

2014年10月15日

(第2号)

👁️暮らしと折り合いをつけて👁️

先日ホームドクターという小冊子の取材を受けて在宅医療についてお話しました。

在宅医療というのはただ単に家で医療を行うということではありません。病院で治療を受ける時は病気を治す事が目的で、治療が最優先です。特に入院では、日々の暮らしは一時凍結されます。・・・ちょっと極端な話になりますが病院で死ぬということは、日常を捨てて病気との闘いの中で死ぬ。という事にもなりかねません。在宅医療では日々の暮らしと折り合いをつけながら、暮らしやすさを目標に治療が行われます。どちらが良いとか優れているということではありません。年齢や性別、病気や障害の種類によって決めるわけでもありません。何を求めるかで選んでいただきたい。

病気を治す事を強く求めるのであれば病院が、治りきらない病気や障害を自分の一部と受け止めて、日常生活を取り戻し、自分らしく生きたいと考えるならば在宅がふさわしいと思います。絶対的な二者択一ではなく、その時その時で適宜どちらかを選んで頂ければ良いのです。



曳田きみ子様のお宅にて

10月3日にCCL(くくると読みます)の勉強会で私たちの経験を披露する場を頂きました。



CCL研修会で小竹勇太介護員(先生の左)と共に

本人と家族が満足できる看取りについて発表して欲しいとのことでした。介護員の小竹君に報告して貰いましたが、当日の参加者は看護師、ケアマネ、介護員ほか130人もの医療介護の専門職でした。とても驚いたのは、看取りとは命が燃え尽きる瞬間に立ち会う事と考えている人が多かった事です。最後の瞬間にどう関わるかを話し合っていました。

私は「生きている時間に、どれだけその方が選んだ生き方を応援できるかが大切」とスタッフに伝えていきます。お会いしたその日その時からダイナミックに、タイムリーに、そしてスピーディーにその方を応援することの重要性を伝えていきます。もちろん私を含めてスタッフ

が十分な支援を行えているとは考えていません。でも、そう考えながら努力を続けています。

健康管理をさせて頂き、日々の暮らしのお手伝いをさせて頂き、人生の大切な時間を一緒に過ごさせて頂ける皆様に未熟な我々が今はっきりと申し上げられるのは、

「我々はあなたのことを真剣に考えています。」ということだけかもしれません。

ご家族様からのおたより

前略 さわやかな秋日和にコスモスが風に揺れております。ふたば診療所の皆様お変わりありませんか？

私の母、村田トミ子は在宅介護で谷藤 Dr のお世話になって22日目で亡くなりました。（享年83歳）

ヘルパーさん、看護師さん、谷藤 Dr のお世話にならなければ私ひとりでは看取することはできませんでした。この制度に大変感謝しております。病院に入院していても窓からお花畑も見られませんが、好きな物も食べられませんが、自宅に戻ってからは好きな物を食べて母は幸福だったと思います。

お手紙に同封されていたイラスト

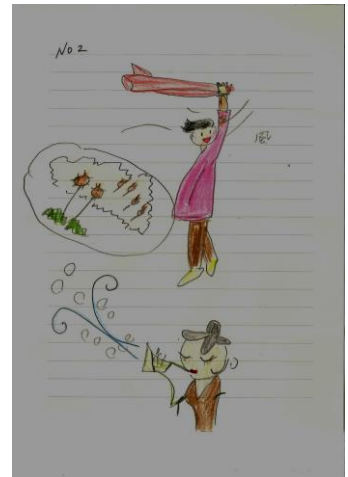
最初は谷藤 Dr と東さんと二人で始めて現在職員が37名も居ると言うことで驚きました。

谷藤 Dr が私に「大丈夫ですか？弟さんが変わって貰った方が良くないですか？」と声を掛けて下さったり、母が亡くなった時も「お母さんよく頑張りましたね、娘さんもよくやりましたね。」と言って母の手を握って下さった時は嬉しかったです。

谷藤 Dr はハートのある温かい人だと思いました。宮田貴大さんの誕生日の記念写真も皆さん和やかでとても良い感じですね。これからも大変な事があると思いますが、ふたば診療所さんのご発展のお祈り申し上げます。 まずはお礼まで。

草々

村田 敬子



・・・お手紙を下された村田様は今年7月にご自宅でお母様を看取られました。

途中から血糖コントロールの為にインシュリンの注射が開始になり、娘さんが行う事となりましたが、その際にも一生懸命練習をされ、あっという間に自分のものにしてしまった。というエピソードからお分かり頂けるとおもいますが本当にお母さんの為に一生懸命尽くされました。ほとんどの時間を一人で看られていたのですが、いつも淡々と安定したご様子でした。お部屋にはトミ子様が作られた陶芸の素晴らしい作品がギャラリーのように飾られており、お母様の事を大切にしている様子が伺えました。

敬子様、本当にありがとうございました。

<お知らせ> 釧路子どもミュージカルキッズ Rocket の皆様がホスピス・ケアふわりで公演を行って下さる事

が決定しました。通信を読まれている方ならどなたでも参加頂けます。

皆さんも一緒に感動を味わいませんか？

H26年11月8日(土)午前11:00よりスタート

編集後記

皆様のお手紙随時募集しております！ azuma@shishinn.com

めっきり寒くなってきましたね。皆様は風邪などひいていませんか？先日、健康診断でとある病院へ行った所「もしかして東さん？」と声を掛けて下さる美しい女性がおりました。診察用のガウンを着ていたのが気づくのが遅れたのですが、以前、訪問診療でお世話になったT様の娘さんでした。久しぶりにお会いしたにも関わらず、あっという間に当時の親しみが湧いてきます。私たちは娘さんのお母さんと笑っている姿や泣いている姿も見て、一緒に笑って、迷って、泣いてとても深い部分でお付き合いさせて頂いていたと改めて解りました。・・・当時お風呂上がりに裸ん坊でT様の側を走り回っていたお孫さんも、もう小学生との事。「ああ一時は流れたんだなあ」としみじみ思いました。

偶然の再会を演出してくれた神様に感謝！！